



俵屋宗達展

400年前からずっと、クールジャパン。

Lineage  of  Elegance:
 Tawaraya  Sōtatsu 

2015年10月24日－2016年1月31日 **News Release**

会場：アメリカ・ワシントンD.C. フリーア|サックラー美術館

主催：国立スミソニアン協会フリーア|サックラー美術館 独立行政法人国際交流基金

JAPAN FOUNDATION  国際交流基金  

FREER | SACKLER
THE SMITHSONIAN'S MUSEUMS OF ASIAN ART

俵屋宗達展

「宗達：創造の波 “Sōtatsu: Making Waves”」

*本展の正式名称は上記に決定しました。本資料の表紙は今年3月から配布している公式ポスターです。

2015.7.24

琳派400年となる今年の秋から、欧米で初めて俵屋宗達を包括的に紹介する大規模な展覧会「宗達：創造の波」を、アメリカ ワシントンDCのフリーア美術館で開催します。フリーア美術館が所蔵する国宝級の名品「松島図屏風」をはじめ、日本、アメリカ、ヨーロッパから空前の約70点の宗達作品と関連作品が一堂に会します。

フリーア美術館は、多くの貴重な日本美術を所蔵していますが、設立者であるチャールズ・ラング・フリーアの遺言によりすべての所蔵品が門外不出となっているため、当展は複数の松島図が競演する、ワシントンでしか開催することができない唯一無二の展覧会となります。なお、当館の「松島図屏風」が公開されるのは2011年以来4年ぶりです。

当展では、京都で生まれ、「俵屋」と呼ばれる絵画工房で扇絵を中心とした絵の制作に携わっていた宗達が、当時の貴族階級とのつながりを通じて王朝文化をオマージュする洗練された作品を生み出していく過程を探ります。宗達がその後の美術界に与えた影響は重大で、当展では現代まで続くその系譜を検証、さらに宗達に影響を受けた後代の琳派作品30点以上を紹介する関連展示も開催します。

展覧会名	「宗達：創造の波」(英語タイトル “Sōtatsu: Making Waves”) *関連展示「ボールド・アンド・ビューティフル 日本美術における琳派」(英語タイトル: “Bold and Beautiful: <i>Rinpa</i> in Japanese Art”)		
会期	2015年10月10日24日(土)～2016年1月31日(日) *関連展示は6月28日(日)～1月3日(日)		
開館時間	10:00～17:30(入館は17:00まで)	休館日	12月25日
入館料	無料		
主催	国立スミソニアン協会 フリーア サックラー美術館	独立行政法人国際交流基金	
特別協力	東京藝術大学		
協力	全日本空輸株式会社		
会場	フリーア サックラー美術館(米国ワシントンDC) 住所: Independence Ave at 12th St SW, Washington, DC 20560 アクセス: 地下鉄 スミソニアン・メトロ駅下車 徒歩1分		
読者からの問合せ	+01 (202) 633-1000 (フリーア美術館: 英語)	03 (5369) 6061 (国際交流基金: 日本語)	
ホームページ	フリーア サックラー美術館 http://www.asia.si.edu/	国際交流基金 https://www.jpfa.go.jp/	
プレス内覧会	10月21日(水)		
イベント	ワークショップ、フィルム・フェスティバル、コンサート、シンポジウムなど、多様な関連イベントを予定しています。 詳しくは7ページをご参照ください。		
観賞ツアー	日本からの観覧希望者向けに、今秋、当展の日本発の観賞ツアーを実施する予定です。現地滞在中は、担当キュレーターの解説によるギャラリートツアーや、フリーア美術館の修復所見学などを予定しています。詳細は、下記広報東京事務局までお問い合わせください。		
関連商品の発売	俵屋宗達を概観する英語での初めての資料となる当展の図録を発行します。また、扇、マグカップ、スカーフ、デスクトップスクリーンなどの展覧会グッズも発売します。いずれもスミソニアン博物館のミュージアムショップで購入できます。なお図録については、オンラインでも販売します。		

本件に関する報道関係者からの
お問い合わせ先

フリーア美術館 広報東京事務局 富樫、大原 TEL:03-5689-0449
E-mail: freer@prinfo.co.jp 携帯:080-5443-1112 〒113-0033 東京都文京区本郷4-24-8-11F

■ 展覧会の構成

日本の歴史の最も混乱した時代に現れた、比類なき天才・俵屋宗達 (ca.1570-ca.1640) は、その力強いデザインで日本の視覚文化を革命的に変え、伝統的な王朝文化の美を大衆にもたらした市井の人でした。当展は宗達の代表作である「松島図」から宗達と後代の影響をひもとく7つのセクションで構成しています。

第一部では当館が誇る「松島図屏風」をはじめとする屈指の屏風を展示します。第二部「美の語らい」では、本阿弥光悦との共作から宗達の開放性と修養を読み解きます。第三部「いにしへの物語」は、伊勢物語を中心に宗達が鮮やかに描いた物語絵を辿ります。第四部「すみ色」では、「たらしこみ」で知られる宗達の水墨画の名品を、そして第五部「伊年の苑」では宗達亡き後も18世紀まで使用された「伊年印」を検証します。第六部は「受け継がれた波」として、尾形光琳、鈴木其一、酒井抱一など宗達の直接の流れを受け継ぐ琳派の名匠たちの松島図をご覧ください。最後の第七部「見直された宗達」で、琳派の最盛期を飛び越えて、20世紀初頭の作品から宗達の現代性に迫ります。

扇の工房であった俵屋。扇という制限のあるスペースでの表現への取り組みを通じて、宗達は新たな洞察に基づくダイナミックな構成を獲得しました。また、宗達の紙や金銀泥といった素材へ深い理解は輝かしい作品へと結実しています。7つの、時に重なり合うテーマを通じて、偉大な創造性を堪能ください。

■ 主な展示作品

フリーア美術館が所蔵する国宝級の代表作

フリーア美術館が有する約12,000点に上る日本美術品のなかでも最も重要な作品群に入る俵屋宗達の「松島図屏風」と「雲龍図屏風」。いずれも日本にあれば国宝級と言われ、チャールズ・ラング・フリーアが明治期に購入した名品です。この2点が、世界中の他の宗達作品と一緒に展示されるのは、本展が初めてとなります。

なお、松島図屏風は、今年京都で開催されている「琳派400年記念祭」のオフィシャルポスターデザインにも採用されました。

細部 (左隻)



細部 (右隻)



「松島図屏風」細部 俵屋宗達
江戸時代 17 世紀 六曲一双 紙本着色 フリーア美術館
F1906.231-232 Freer Gallery of Art, Smithsonian

細部 (左隻)



細部 (右隻)

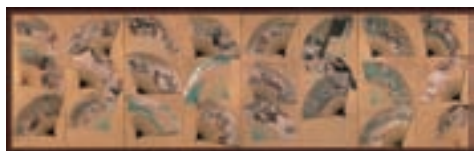


「雲龍図屏風」細部 俵屋宗達
江戸時代 1600 年代初期 六曲一双 紙本墨画淡彩 フリーア美術館
F1905.229-230 Freer Gallery of Art, Smithsonian

日米の共演が実現 -日本から出展される作品-

本展は、初めてアメリカで俵屋宗達作品を包括的に紹介するもので、日米の研究者がプロジェクトに参加し、共同でキュレーションを行いました。日本からは、宮内庁三の丸尚蔵館が所蔵する「扇面散屏風」をはじめ、東京藝術大学、出光美術館、細見美術館をはじめとする日本の美術館から個人蔵の名品までが数多く展示されます。

また、前田青邨、小林古径、小倉遊亀といった宗達に影響を受けた近代画家の作品も日本から出展され、多くのアメリカの方々に、日本の宗達作品と関連作品に触れていただく貴重な機会となります。



細部（左隻）



細部（右隻）



「扇面散屏風」俵屋宗達 江戸時代
1600年代初期 宮内庁三の丸尚蔵館

海を渡った宗達 -アメリカ・ヨーロッパから宗達作品が集結-

宗達作品は海外でも高く評価され、日本美術の代表として愛されています。ボストン、ニューヨーク、シアトル、クリーブランド、インディアナポリス、ミネアポリスといったアメリカ中の美術館から「伊勢物語色紙」の名品をはじめとする多数の作品を、またヨーロッパからはベルリン美術館が有する「四季草花下絵和歌色紙帖」を展示、在外の重要作品が集結します。



「伊勢物語色紙（住吉）」俵屋宗達
1600～1640年 クリーブランド美術館



「四季草花下絵和歌色紙帖」俵屋宗達、本阿弥光悦
1600年代初期 ベルリン美術館
© Staatliche Museen zu Berlin, Museum für Asiatische Kunst, photography: Jürgen Liepe

■ 出展作品リスト (6月30日現在) *会期中、作品の展示替えの予定があります。「松島図屏風」「雲龍図屏風」の展示替えはありません。

第一部 Introduction はじめに

松島図屏風	俵屋宗達	江戸時代、1600年代初期	フリーア美術館
扇面散貼付屏風	俵屋宗達	江戸時代、1600年代初期	フリーア美術館
鳶の細道扇面流図屏風		江戸時代、1600年代初期から中期	フリーア美術館
扇面散屏風	俵屋宗達	江戸時代、1600年代初期	宮内庁三の丸尚蔵館

第二部 Artistic Dialogues 美の語らい

四季草花下絵和歌色紙帖	俵屋宗達、本阿弥光悦	1600年代初期	ベルリン美術館
桜下絵和歌色紙	俵屋宗達、本阿弥光悦	1606年	メトロポリタン美術館
浜松下絵和歌色紙	俵屋宗達、本阿弥光悦	1606年	クリーブランド美術館
唐獅子木版下絵和歌巻	俵屋宗達、本阿弥光悦	1600年代初期	クリーブランド美術館
古今集和歌巻	俵屋宗達、本阿弥光悦	桃山または江戸時代、1600年代初期	フリーア美術館
蓮下絵和歌巻	俵屋宗達、本阿弥光悦	1615年頃	メトロポリタン美術館
鹿下絵和歌巻	俵屋宗達、本阿弥光悦	1610年代	シアトル美術館
新古今集和歌色紙貼付屏風	俵屋宗達、本阿弥光悦	江戸時代、1624年から1637年頃	フリーア美術館
光悦三十六歌仙	俵屋宗達、本阿弥光悦	江戸時代、1610年	フリーア美術館
光悦謡本	俵屋宗達、本阿弥光悦	江戸時代、1600年代初期	フリーア美術館
光悦謡本	俵屋宗達、本阿弥光悦	江戸時代、1600年代初期	東京藝術大学

第三部 Classics いにしえの物語

四伊勢物語色紙（宇津山）	俵屋宗達、竹内俊治	1634年頃	メトロポリタン美術館
伊勢物語色紙（武蔵野）	俵屋宗達	1600年代初期から中期	出光美術館
伊勢物語色紙（立田越え）	俵屋宗達	江戸時代、1600年代初期から中期	インディアナポリス美術館
伊勢物語色紙（梓弓）	俵屋宗達	1600年代初期から中期	山口蓬春記念館
伊勢物語色紙（女車の蛸）	俵屋宗達	1600年代初期から中期	ウォルターズ美術館
伊勢物語色紙（住吉）	俵屋宗達	1600年から1640年頃	クリーブランド美術館
伊勢物語色紙（神のいがき）	俵屋宗達	1634年頃	ネルソン・アトキンス美術館
伊勢物語色紙（大淀）	俵屋宗達	1600年代初期から中期	細見美術館
伊勢物語色紙（塩釜）	俵屋宗達	1600年代初期から中期	東京藝術大学
伊勢物語色紙（布引の滝）	俵屋宗達	1600年代初期から中期	ミネアポリス美術館
西行物語絵巻 -重要文化財-	俵屋宗達	1600年代初期	文化庁
源氏物語図屏風	俵屋宗達	1600年代初期から中期	ミネアポリス美術館

第四部 Inkworks すみ色

鳥窠和尚図	俵屋宗達	1600年から1640年頃	クリーブランド美術館
童子仔犬図	俵屋宗達	桃山または江戸時代、1600年から1630年頃	フリーア美術館
雲龍図屏風	俵屋宗達	江戸時代、1600年代初期	フリーア美術館
龍虎図	俵屋宗達	江戸時代、1600年代初期	出光美術館
狗子図	俵屋宗達	1600年代初期	個人蔵
墨梅図	俵屋宗達	1600年代初期	細見美術館
歌仙絵 在原元方	俵屋宗達	1600年代初期	個人蔵
枝豆図	俵屋宗達	1600年代初期	個人蔵
山帰来図	俵屋宗達	1600年代初期	東京国立博物館
軍鶏図	伊年印	1600年代初期	個人蔵

第五部 The I'nen Garden 伊年の苑

四季草花図屏風	伊年印、宗達派	江戸時代、1620年から1650年頃	アジア・ソサエティ
芍薬と百合図	伊年印、俵屋宗達	江戸時代、1568年から1615年頃	フリーア美術館
夏秋草花図屏風	伊年印	江戸時代、1600年代	フリーア美術館
雑木林図屏風	伊年印、琳派	江戸時代、1600年代中期	フリーア美術館
合歡木芥子図屏風	伊年印	江戸時代、1630年から1670年頃	フリーア美術館
鶏頭玉蜀黍朝顔図屏風	伊年印、宗達派	桃山時代、1568年から1615年頃	フリーア美術館
鶏頭玉蜀黍朝顔図屏風	伊年印、宗達派	桃山時代、1600年代初期	フリーア美術館

第六部 Legacy of Waves 受け継がれた波

誰が袖		江戸時代、1700年代	フリーア美術館
松島図屏風	俵屋宗達工房	1600年代中期	ミネアポリス美術館
松島図屏風	尾形光琳	1700年代初期	ボストン美術館
松島図小襖	鈴木 其一	1830年頃	ファインバーグ・コレクション
松島・富士図屏風	尾形光琳派	1800年代	ヤナギコイイチ・オリエンタル・ファイン・アーツ
光琳百図 後編	酒井抱一	江戸時代、1826年	フリーア美術館
光琳百図	酒井抱一	1815年、1826年	東京藝術大学附属図書館

第七部 Rediscovery 見直された宗達

雪中水禽図	都路華香	1918年頃	シアトル美術館
不老仙鶴図	都路華香	1910年代	シアトル美術館
風神雷神	前田青邨	1949年	セキ美術館
龍虎図	今村 紫紅	1913年	埼玉県立近代美術館
犬	小林古径	1948年	個人蔵
径	小倉遊亀	1966年	東京藝術大学
雲中天壇	梅原龍三郎	1939年	京都国立近代美術館
扇面流し	山口蓬春	1930年	山口蓬春記念館
花菖蒲	福田 平八郎	1934年	京都国立近代美術館
朝露	平福百穂	1915年	宮内庁三の丸尚蔵館
唐蜀黍	小林古径	1939年	東京国立近代美術館
千羽鶴	加山又造	1970年	東京国立近代美術館
芥子図屏風	前田青邨	1930年	光ミュージアム
竹	福田 平八郎	1942年	京都国立近代美術館

■ 関連イベント

特別イベント

「シティナイト・京都」10月23日(金)

京都をフィーチャーした一般向けのプレビューイベント。

木版画体験、着物ワークショップ、扇作り、ギャラリーツアー、ライブ演奏などを実施。

トーク・シンポジウム

「オープニングパネル」10月24日(土)

俵屋宗達に関する英語での初の出版物となる当展の図録執筆者たちが宗達について議論します。

パネルディスカッション 「キュレート・保存・調査」 11月15日(日)

キュレーター、修復家、修復科学者が、3つの観点からディスカッションを行います。

「宗達シンポジウム」 12月5日(土)

さまざまな分野の専門家たちが、宗達の作品と人生を形作った当時の社会、文学、パトロンたちについて議論します。京都の歴史についてベス・ベリー、伊勢物語についてジョシュア・スコット・モストー、扇デザインについて迫村知子、桃山時代後期と初期江戸時代の文化についてモルガン・ピテルカといったスピーカーを予定しています。

「ポイント・オブ・ビュー トークス」

美術館の専門家たちが、気軽なランチタイムトークとして当展のトピックを掘り下げます。

映画祭

「鈴木清順のフィルム」 10月～11月

鈴木清順の初めての回顧上映フェスティバル。当館キュレーターのトム・ヴィックの鈴木に関する書籍の発行を記念し、鈴木を紹介すると同時に、鈴木と宗達の芸術哲学について探ります。

ワークショップ

「“たらしこみ”ワークショップ」

花びらや水滴といった繊細な表現を生んだ宗達の技術を学びます。

「和紙作り」

和紙の特性と17世紀日本の和紙装飾を学び、実際の和紙づくりを行います。

家族向けプログラム

「イマジンアジア：松島図屏風の遺産」

日本画の技術を使ったクラフトづくりです。

「宗達の扇」

会期中に設けられる体験・参加型スペースで、扇や屏風をデザインできます。

コンサート

「八橋検校と17世紀の日本の音楽」

宗達がその美術を通じて王朝文化というテーマをより身近なものにしていった時代、音楽で同じことを行っていたのが八橋検校(ca.1614-1685)でした。京都の尺八演奏家・無住庵尺八道場との共催により、八橋の「伊勢物語」「源氏物語」、さらに現代の作曲家・ゲイリー・ダヴィッドソンによるインストゥルメンタル音楽「千鳥の曲」などを演奏します。



過去のイベント、ワークショップの様子

■ 参考資料

チャールズ・L・フリーアと俵屋宗達



その謎の生涯のように、宗達は日本では長く忘れられた芸術家でした。尾形光琳は宗達作品を深く尊敬していましたが、江戸時代から明治時代までの間、宗達自身の作品は光琳よりもはるかに評価が低かったと言えます。

誰もが忘れていた宗達の圧倒的な魅力にとらわれたのが、明治時代に来日した、フリーア美術館の創立者であるチャールズ・ラング・フリーア(1854-1919)でした。フリーア美術館の中で最も重要な作品群でもある俵屋宗達の作品は、当時のフリーア自らが選んで購入したものです。フリーアに先駆けて来日し、その後長く日本美術の紹介に努めたアーネスト・フェノロサ(1853-1908)と同様、フリーアもまた自らの世界観と美的感覚によって、宗達作品の偉大さに気づいていたのです。

宗達が再び見いだされ、その評価を劇的に変えるきっかけとなったのは、1913年(大正2年)に開催された「俵屋宗達記念会」でした。初めて宗達作品を観た若い芸術家や評論家は、その革新性に大きな衝撃を受けました。その後、宗達を祖とする「琳派」は日本美術における永遠のモチーフとして現代もそれに連なる多様な作品が生み出され続けています。

フリーア美術館について

フリーア美術館は、アメリカ・ワシントンDCにある世界最大の博物館群として知られるスミソニアン博物館群のなかで最初に開設されたファイン・アートの美術館です。設立者であるフリーアの遺言により所蔵品はすべて門外不出となっており、フリーア美術館でしか観ることができません。

日本美術を含む豊富なアジア美術と、19世紀・20世紀初頭のアメリカ美術を中心に幅広い作品を所蔵しています。また、フリーアと交友関係にあったジェームズ・マクニール・ホイッスラー(1834-1903)の傑作であり、当館の唯一の常設展示である「青と金色のハーモニー:ピーコックルーム」でも知られています。

2013年現在の所蔵品数は25,864点で、うちアジア美術が約22,000点、日本美術が約12,228点、日本の陶磁器が約2,885点です。

フリーア美術館は、サックラー美術館と隣接しており地下通路でつながっています。開催する展覧会により、展示会場として両美術館を使用しています。



当展開催前後の主要な企画展・今後の予定(一部。なお、隣接のサックラー美術館の企画展も一部含む)

「日本の屏風における季節の風景」	5月7日～9月7日
「ピーコックルーム・リミックス」	5月16日～2017年1月2日
「エニグマ: 八大山人の芸術」	6月20日～2016年1月3日
「アッバス・キアロスタミ: ファイブ・デディケイテッド・トゥ・オズ」	7月3日～9月13日
「ボールド・アンド・ビューティフル: 日本美術における琳派」	6月28日～2016年1月3日
「喜多川歌麿」展(予定)2017年秋以降	2017年秋以降

*2016年1月～2017年夏まで館内設備改修のため休館。(隣接のサックラー美術館は開館)